



『覚・求・徹』

～ 校長室 だより ～

令和8年3月24日(火)

第13号

葛城市立白鳳中学校

校長 中川 順一



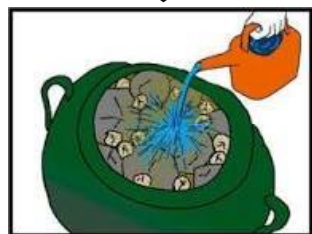
『守破離』 大きく羽ばたくために 今やるべきことを考えて！



本日、3月24日(火) 令和7年度修了式を終えました。今年度、4月の始業式でみなさんに「春笑む」ような気持ちで白鳳中学校で「居心地良く」過ごしてもらいと話しました。みなさんの今の中学生時代を蝶の蛹に例え、蛹は硬い殻をまとっていますが、その中はドロドロに溶けてしまうんだそうです。いったん溶けてしまった身体から蛹の中で翅や口や脚をつくり上げていく。外からみても分からない変化が蛹の中で起こる。蛹から脱皮して一人前になる。人は未熟な時代をよく蛹に例えます。おそらく中学生が蛹の時期なんでしょう。



ある大学の授業で、大学の先生が大きな壺を取り出し教壇に置きます。次に先生はいくつも岩を取り出し、壺の縁まで岩を入れて学生に尋ねます。「この壺は満杯かい？」 教室中の学生は「はい。」と答えます。先生は「本当に？」と言いながらバケツに入った砂利(細かい石)を取り出し壺に流し込みます。砂利は岩と岩の隙間に入っていきます。縁まで砂利をいれたところでまた先生が聴きます。「この壺は満杯かい？」 ひとりの学生が「多分違うだろう。」と答えます。先生は「そうだね」と言いながら砂を取り出し、壺の中に流し込みます。そして3度目の質問。「この壺は満杯かい？」 学生は声をそろえて「いいえ！」と答えます。先生はにっこり笑って、壺の中に水を注ぎ入れました。



「もう終わりだと思ってもまだ先がある」「これ以上は無理だと思っても工夫次第ではもっとできる」それも大事なことだと思います。それ以上に「大きな岩を先に入れない限り、砂や水が入る余地は二度とない」ということです。私たちの人生を、小さなつまらないもので一杯にしてはいけない、自分にとって大切なもの、重要なものを優先しなさい。そして自分にとって「大きな岩」とは何か、よく考えてみましょう。

今年最後に紹介する字はこれです。「守破離」です。「守破離」とは安土桃山時代の茶人、千利休の教えです。「基本の作法をしっかりと守り、やがてそれを破り、最終的にそこから離れて独自のスタイルを築いたとしても、決して『最初の基本(本質)』を忘れてはいけないよ。」こんな教えです。今のみんなは、いつか蛹から変化する(破る)ための「守」の時です。蛹の中身をしっかりと形作る時、「大きな岩」をしんどいけれど置いていく時です。いつかそれを破って、自分自身を確立するためにも基礎基本、当たり前のことを身につけましょう！

学校はそんな学びができて一緒に頑張れる場所なんです。失敗しながらでも、一緒に頑張れる場所なんです。そこには私たち、教職員もいます。これから春休み、進級、大変おめでとういんだけど、不安もありますよね。クラス替え、勉強など…。不安な時は、ぜひ、友達や先生方に相談してください。一緒に頑張らしましょう。

2年生のみなさん、最上級生となります。1年生のみなさん、後輩がやってきます。みなさんを手本として中学校生活を過ごしていきます。

しっかりと自身を整えておきましょう！

そして、事故やケガのないよう過ごし、6日の始業式で会いましょう！



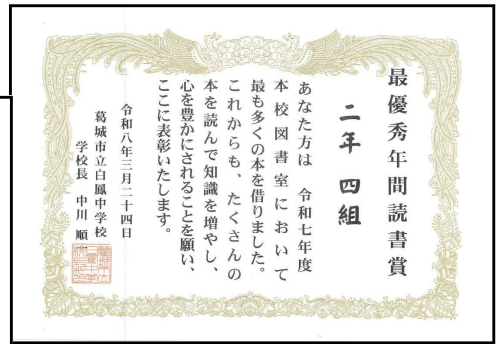
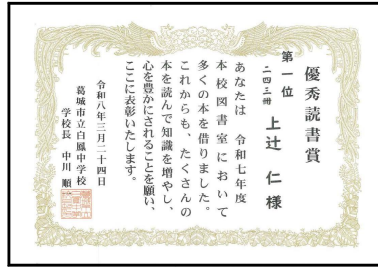
4月から図書室で待っています！

図書室貸し出し冊数表彰

令和7年度年間

図書室貸し出し冊数

1位 2年4組 556冊
 2位 1年3組 473冊



令和7年度最優秀読書賞

1位 2年4組 上辻 仁さん
 243冊
 2位 2年3組 松本 啓佑さん
 224冊
 3位 2年4組 宮内 菜緒さん
 170冊



屋根付きベンチ設置

葛城市中学生議会
 「志議会」で本校生徒会が
 「誰もが安心して休憩できるまち
 づくりについて熱中症対策と
 なる屋外環境整備」として提案
 した「屋根付きベンチ」の設置が
 本校近くの長尾ポケットパークと
 木戸池公園にも設置され
 ました。

1年生郷土学習

3月4日に1年生を対象に葛城市歴史博物館からゲストティーチャーをお招きした郷土学習を開催しました。当麻寺の歴史や日本最古の官道「竹内街道」など、葛城市が誇る宝物について専門的な視点からわかりやすくお話しいただきました。生徒たちは身近な風景の中に隠された深い歴史に驚き、改めて理解を深めました。

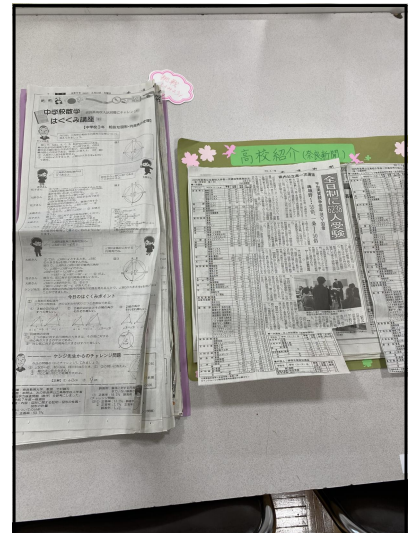


図書室からの情報



↑ 公立高校一般選抜
 入試問題です！
 挑戦してみては！

新聞掲載の入試情報や
 チャレンジ問題もありま
 す！ ↓



保護者のみなさまへ

本日、令和7年度修了式を行い、修了証書をお子様にお渡ししました。この一年間保護者の皆さまからいただいた多大なるご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

本年度の教育活動の課題と成果を明確にし、得られた成果はさらに拡充させるよう、また、課題は改善に向けての具体的な手立てを示し、日々取り組んでまいり所存です。

今後とも本校の教育活動にご理解、ご協力のほどお願いいたします。

1年間、校長室だよりをお読みいただきありがとうございました。お礼を申し上げますと共に引き続き、よろしくお願いいたします。